

**豊橋創造大学大学院経営情報学研究科 起業・経営情報専攻 修士課程 カリキュラムマップ**

2017/3/13

大学院研究科のディプロマポリシー		建学の理念・特徴・期待する成果など							
豊橋創造大学大学院経営情報学研究科修士課程では、所定の単位を修得し学位試験に合格した者は、以下の基準を満たしていると認め、修士(経営情報学)の学位が授与される。 1. 選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。 2. 修士論文に関する高度な知識と技能を有する 3. 創造性と専門性を発揮し、経営諸問題の解決能力と意思決定能力を有する。		大学院に置いては、創造性をもった、専門経営者、中小企業経営者・後継者を中心とした、高度の専門的職業人の養成を目的としている。その対象は広範であり、 ① 各種の産業の中小企業経営者が経営戦略の立案をより良く行うため ② 中小企業の後継者がある程度の実務経験を経た後に、改めて企業の経営についての学識と能力を高めるため ③ 企業に勤務する職業人が特定の分野を中心として企画・管理能力を向上させるため ④ 起業を志す者が意欲を間違いなく現実のものとするため ⑤ 企業に関わるコンサルタントや職業会計人などの専門家としての準備をするため ⑥ 地方自治体や地域経済団体の職員が産業行政・産業振興についての専門能力を高めるため ⑦ 企業経営に関する専門研究者の基礎を固めるため等の目的を実現することである。  これらの諸目的に関連して、院生は特定の領域における研究計画を作成して修士論文に帰結させるが、その研究を支える広い領域についての諸科目を、指導教員の助言を受けながら学習する。企業・起業の① 環境領域、② 会計・マネジメント領域、③ マネジメント・サイエンス領域、④ メディア/ネットワーク領域の各領域について専攻以外の領域についても修士レベルでの基礎知識はどのような目的を持つ者にとっても不可欠であるが、さらに学部レベルでの基礎知識の不足を自覚する者には学習する便宜が図られる。院生に求められることは自主的な意欲であり、目的を実現させる努力である。							
専攻のカリキュラムポリシー		専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目)							
1. 教育目標 本研究科は、「創造性豊かな次世代社会の担い手を育成する」という建学の基本理念に則り、「専門経営者、特に同候補者、起業家の教育・育成」という実践的な高度の専門職業人の養成を目的とする。  2. 目標項目 本研究科の教育研究は、次の3つの目標項目において1つ以上の能力を習得しなければならない。 A. 「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。 変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。 B. 「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。 情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。 C. 「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。 情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。  3. 教育研究科目群 教育目標を実現するために、教育研究の領域を「企業・起業」における“マネジメント”、“環境”、“マネジメント・サイエンス”と“メディア/ネットワーク”の4つの学問領域と論文指導に区分し、履修形態を講義科目と演習科目により編成している。 A. 「企業・起業の環境」領域 企業家・起業家に必須な社会システムを体得させるための主要要素を鳥瞰できるような科目群。 B. 「企業・起業のマネジメント」領域 企業・起業の諸問題に切り込むための経営管理能力と経営意思決定能力を体得させるための科目群。 C. 「企業・起業のマネジメント・サイエンス」領域 企業・起業活動の意思決定や管理に対しコンピュータの活用によるモデル構築やシミュレーション等を行い、これらを体験的に学習させる科目群。 D. 「企業・起業のメディア/ネットワーク」領域 メディア関係ではメディアのデジタル技術と表現方法を体験的に学習させるための科目群。 E. 論文指導 これら4つの領域の中から、修学者個人の問題意識に基づく修士論文作成を必修科目として義務付けている。		「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。  「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。  「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。  「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。  ◎ 修士論文に関する高度な知識と技能を有する  ◎ 創造性と専門性を発揮し、経営の諸問題も解決能力と意思決定能力を有する							
科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数						
			必修	選択					
現代経済特論	先進資本主義諸国の経済社会政策が自由主義的転回を遂げるにつれ、多様な社会的課題(グローバル化、貧困と格差、社会保障、環境問題等)が改めてクローズアップされるようになった。本講座では、戦後体制の民主的遺産を次世代に繋げ、新たな資本主義理論の構築が不可欠であることに鑑み、EU(欧州連合)における、またグローバル社会における(代替的)経済、社会政策のあり方を学び、その可能性を検討する。この授業では、輪読や自主的読書、レポートの作成を通じ、社会科学における諸論点に接し、各自の意見形成を支援する。また、論文構成の方法を学び、各人の修士論文に繋げる。	現代資本主義論の習得やディスカッションを通じ、① 先進諸国の戦後社会経済体制の基本的構成要素、② 1980年代以降の新自由主義の時代におけるその変化、③ そうした変化の妥当性に関する理解を、学習者各自が獲得すること。		4	◎				
中小企業特論	本年度は開講しない	本年度は開講しない		4	◎				
金融システム特論	本年度は開講しない	本年度は開講しない		4	◎				
組織行動特論	本科目では組織における人間行動の理解を深めることが目的となる。私たちが組織で働くとき、私たちはどんな場合にどのような反応をし、どのような行動をするのだろうか。マネジメントする側にたつたとして、どのようにしたら働く側から望む行動を引き出せるのだろうか。授業を通じてこれらについて理解を深めていく。	①講義内容を理解し説明することができる ②①の内容に対して事例と結び付けて説明することができる		4	◎				

豊橋創造大学大学院経営情報学研究科 起業・経営情報専攻 修士課程 カリキュラムマップ

2017/3/13

大学院研究科のディプロマポリシー		建学の理念・特徴・期待する成果など							
<p>豊橋創造大学大学院経営情報学研究科修士課程では、所定の単位を修得し学位試験に合格した者は、以下の基準を満たしていると認め、修士(経営情報学)の学位が授与される。</p> <p>1. 選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。</p> <p>2. 修士論文に関する高度な知識と技能を有する</p> <p>3. 創造性と専門性を発揮し、経営諸問題の解決能力と意思決定能力を有する。</p>		<p>大学院に置いては、創造性をもった、専門経営者、中小企業経営者・後継者を中心とした、高度の専門的職業人の養成を目的としている。その対象は広範であり、</p> <p>① 各種の産業の中小企業経営者が経営戦略の立案をより良く行うため                  ② 中小企業の後継者がある程度の実務経験を経た後に、改めて企業の経営についての学識と能力を高めるため                  ③ 企業に勤務する職業人が特定の分野を中心として企画・管理能力を向上させるため                  ④ 起業を志す者が意欲を間違いなく現実のものとするため                  ⑤ 企業に関わるコンサルタントや職業会計人などの専門家としての準備をするため                  ⑥ 地方自治体や地域経済団体の職員が産業行政・産業振興についての専門能力を高めるため                  ⑦ 企業経営に関する専門研究者の基礎を固めるため等の目的を実現することである。</p> <p>これらの諸目的に関連して、院生は特定の領域における研究計画を作成して修士論文に帰結させるが、その研究を支える広い領域についての諸科目を、指導教員の助言を受けながら学習する。企業・起業の① 環境領域、② 会計・マネジメント領域、③ マネジメント・サイエンス領域、④ メディア/ネットワーク領域の各領域について専攻以外の領域についても修士レベルでの基礎知識はどのような目的を持つ者にとっても不可欠であるが、さらに学部レベルでの基礎知識の不足を自覚する者には学習する便宜が図られる。院生に求められることは自主的な意欲であり、目的を実現させる努力である。</p>							
専攻のカリキュラムポリシー		専攻の学習成果(◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目)							
<p>1. 教育目標 本研究科は、「創造性豊かな次世代社会の担い手を育成する」という建学の基本理念に則り、「専門経営者、特に同候補者、起業家の教育・育成」という実践的な高度の専門職業人の養成を目的とする。</p> <p>2. 目標項目 本研究科の教育研究は、次の3つの目標項目において1つ以上の能力を習得しなければならない。                  A. 「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。                  変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。                  B. 「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。                  情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。                  C. 「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。                  情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p> <p>3. 教育研究科目群 教育目標を実現するために、教育研究の領域を「企業・起業」における“マネジメント”、“環境”、“マネジメント・サイエンス”と“メディア/ネットワーク”の4つの学問領域と論文指導に区分し、履修形態を講義科目と演習科目により編成している。                  A. 「企業・起業の環境」領域                  企業家・起業家に必須な社会システムを体得させるための主要要素を鳥瞰できるような科目群。                  B. 「企業・起業のマネジメント」領域                  企業・起業の諸問題に切り込むための経営管理能力と経営意思決定能力を体得させるための科目群。                  C. 「企業・起業のマネジメント・サイエンス」領域                  企業・起業活動の意思決定や管理に対しコンピュータの活用によるモデル構築やシミュレーション等を行い、これらを体験的に学習させる科目群。                  D. 「企業・起業のメディア/ネットワーク」領域                  メディア関係ではメディアのデジタル技術と表現方法を体験的に学習させるための科目群。                  E. 論文指導                  これら4つの領域の中から、修学者個人の問題意識に基づく修士論文作成を必修科目として義務付けている。</p>		<p>「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。</p> <p>「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</p> <p>「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p> <p>修士論文に関する高度な知識と技能を有する</p> <p>創造性と専門性を発揮し、経営の諸問題も解決能力と意思決定能力を有する</p>							
科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数						
			必修	選択					
国際経営特論	国際経営を多国籍企業を中心としてその経営の基本、特徴並びに日本企業との比較についての理解を第一義的な目的とする。次いで、国際経済におけるアジア市場の重要性を確認すると共に日本における外資系企業の経営特性並びにその課題を通して国際経営上のコンフリクトと克服策を検討する。特に、現地化政策(Localization)と中央管理(Centralization)について夫々の特徴今後の方向性について論点を絞る。具体的には多国籍企業の全般的な経営について言及し、次いでサブシステムである販売、マーケティング、生産、資材購買・国際調達、ロジスティクス、人事労務、情報及び財務等について考察し、日本企業との比較を通して多国籍企業経営の本質を理解すると共に多国籍化を展開する際の経営上の問題点である文化、風土、価値観、社会生成環境、経済、政治等について日本における過去の事例に基づいて考察する。最後に、多国籍企業の経営戦略の実例マニュアルを通じて経営戦略の展開と管理方式を習得し、経営戦略展開のリアルな姿を理解する。	基本的に下記に準拠する: ①Q&A ②Home Work ③プレゼンテーション及びディスカッション ④Small Test		4		◎			
人的資源管理特論	人的資源管理の目的は、インプットとしての人的資源を効率的・効率的に確保し、育成し、活用し、処遇し、維持することによって、アウトプットとしての組織的、個人的ならびに社会的ニーズと満足を最大限に充足することにある。この目的を達成するために、具体的には要員計画、募集、採用、教育訓練、配置、異動、昇進、昇格、評価、賞金、福利厚生、定年退職などに関して、さまざまな人事施策が企画され運用されている。本コースでは、これまで日本の企業において、上述の諸点に関し、どのような人事哲学の基にどのような人事施策が導入され運用されてきたか、また、それらの施策が近年激しく起こっている環境変化の影響を受けて、どのように変革されようとしているかを講義し、その変革の是非について討議を重ねていく。	①講義内容を理解し説明することができる ②①の内容に対して事例と結び付けて説明することができる		4		◎			

豊橋創造大学大学院経営情報学研究科 起業・経営情報専攻 修士課程 カリキュラムマップ

2017/3/13

大学院研究科のディプロマポリシー		建学の理念・特徴・期待する成果など							
<p>豊橋創造大学大学院経営情報学研究科修士課程では、所定の単位を修得し学位試験に合格した者は、以下の基準を満たしていると認め、修士(経営情報学)の学位が授与される。</p> <p>1. 選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。</p> <p>2. 修士論文に関する高度な知識と技能を有する</p> <p>3. 創造性と専門性を発揮し、経営諸問題の解決能力と意思決定能力を有する。</p>		<p>大学院に置いては、創造性をもった、専門経営者、中小企業経営者・後継者を中心とした、高度の専門的職業人の養成を目的としている。その対象は広範であり、</p> <p>① 各種の産業の中小企業経営者が経営戦略の立案をより良く行うため</p> <p>② 中小企業の後継者がある程度の実務経験を経た後に、改めて企業の経営についての学識と能力を高めるため</p> <p>③ 企業に勤務する職業人が特定の分野を中心として企画・管理能力を向上させるため</p> <p>④ 起業を志す者が意欲を間違いなく現実のものとするため</p> <p>⑤ 企業に関わるコンサルタントや職業会計人などの専門家としての準備をするため</p> <p>⑥ 地方自治体や地域経済団体の職員が産業行政・産業振興についての専門能力を高めるため</p> <p>⑦ 企業経営に関する専門研究者の基礎を固めるため等の目的を実現することである。</p> <p>これらの諸目的に関連して、院生は特定の領域における研究計画を作成して修士論文に帰結させるが、その研究を支える広い領域についての諸科目を、指導教員の助言を受けながら学習する。企業・起業の① 環境領域、② 会計・マネジメント領域、③ マネジメント・サイエンス領域、④ メディア/ネットワーク領域の各領域について専攻以外の領域についても修士レベルでの基礎知識はどのような目的を持つ者にとっても不可欠であるが、さらに学部レベルでの基礎知識の不足を自覚する者には学習する便宜が図られる。院生に求められることは自主的な意欲であり、目的を実現させる努力である。</p>							
専攻のカリキュラムポリシー		専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目)							
<p>1. 教育目標 本研究科は、「創造性豊かな次世代社会の担い手を育成する」という建学の基本理念に則り、「専門経営者、特に同候補者、起業家の教育・育成」という実践的な高度の専門職業人の養成を目的とする。</p> <p>2. 目標項目 本研究科の教育研究は、次の3つの目標項目において1つ以上の能力を習得しなければならない。</p> <p>A. 「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。 変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。</p> <p>B. 「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。 情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</p> <p>C. 「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。 情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p> <p>3. 教育研究科目群 教育目標を実現するために、教育研究の領域を「企業・起業」における“マネジメント”、“環境”、“マネジメント・サイエンス”と“メディア/ネットワーク”の4つの学問領域と論文指導に区分し、履修形態を講義科目と演習科目により編成している。</p> <p>A. 「企業・起業の環境」領域 企業家・起業家に必須な社会システムを体得させるための主要要素を鳥瞰できるような科目群。</p> <p>B. 「企業・起業のマネジメント」領域 企業・起業の諸問題に切り込むための経営管理能力と経営意思決定能力を体得させるための科目群。</p> <p>C. 「企業・起業のマネジメント・サイエンス」領域 企業・起業活動の意思決定や管理に対しコンピュータの活用によるモデル構築やシミュレーション等を行い、これらを体験的に学習させる科目群。</p> <p>D. 「企業・起業のメディア/ネットワーク」領域 メディア関係ではメディアのデジタル技術と表現方法を体験的に学習させるための科目群。</p> <p>E. 論文指導 これら4つの領域の中から、修学者個人の問題意識に基づく修士論文作成を必修科目として義務付けている。</p>		<p>「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。</p> <p>「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</p> <p>「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p> <p>修士論文に関する高度な知識と技能を有する</p> <p>創造性と専門性を発揮し、経営の諸問題も解決能力と意思決定能力を有する</p>							
科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数						
			必修	選択					
財務会計特論	財務会計は、企業の経営活動の実態に関して外部報告する理論と技術である。財務会計は、実践的な学問であるが、その理論と制度の面から特質を究明したい。企業の経済活動がグローバル化したことに伴い、日本の会計制度も国際化の影響を強く受けている。そのため、特に、会計基準に関連しては、コンバージェンスやアドプションの面からの検討も不可欠となっている。	日本の会計制度およびそれを支える会計理論の発展変化の変遷をたどることにより、現行の会計制度および会計理論の特徴を理解する。		4		◎			
マーケティング管理特論	大学院での研究は、研究対象を正面から深く考察・研究することが求められる。本講義では、世界と日本のマーケティングの権威の論文を丹念に購読することを通じて、大学院レベルで求められるマーケティング理論の習得とより深い考察力を養成することを目指す。	マーケティングの基礎理論をマスターし、それに基づいて現実の企業のマーケティング活動分析に応用できることを目指す		4		◎			
ロジスティクスマネジメント特論	本年度は開講しない	本年度は開講しない		4		◎			◎
生産マネジメント特論	本コースは企業活動全体の中で「生産機能」が果たす役割を生産システムとしてとらえ、①生産に関する主要な基本知識の体系的な理解をはかり、②生産システムに関連した主要な管理システムを解説する。	①生産の概要が詳細に説明できる ②生産方式と生産方式のタイプを説明できる ③生産計画と統制の方法が説明できる ④資材管理、品質管理など生産に関わる管理方式が説明できる ⑤JIT生産を詳細に説明できる ⑥生産情報のシステム化の概要が説明できる ⑦グローバル化におけるメーカーの進むべき方向を解説できる ⑧上記①から⑦における改善案を提示できる ⑨経営における生産の果たす役割を環境、競争、商品などの観点より説明できる		4		◎			

**豊橋創造大学大学院経営情報学研究科 起業・経営情報専攻 修士課程 カリキュラムマップ**

2017/3/13

大学院研究科のディプロマポリシー		建学の理念・特徴・期待する成果など							
豊橋創造大学大学院経営情報学研究科修士課程では、所定の単位を修得し学位試験に合格した者は、以下の基準を満たしていると認め、修士(経営情報学)の学位が授与される。 1. 選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。 2. 修士論文に関する高度な知識と技能を有する 3. 創造性と専門性を発揮し、経営諸問題の解決能力と意思決定能力を有する。		大学院に置いては、創造性をもった、専門経営者、中小企業経営者・後継者を中心とした、高度の専門的職業人の養成を目的としている。その対象は広範であり、 ① 各種の産業の中小企業経営者が経営戦略の立案をより良く行うため ② 中小企業の後継者がある程度の実務経験を経た後に、改めて企業の経営についての学識と能力を高めるため ③ 企業に勤務する職業人が特定の分野を中心として企画・管理能力を向上させるため ④ 起業を志す者が意欲を間違いなく現実のものとするため ⑤ 企業に関わるコンサルタントや職業会計人などの専門家としての準備をするため ⑥ 地方自治体や地域経済団体の職員が産業行政・産業振興についての専門能力を高めるため ⑦ 企業経営に関する専門研究者の基礎を固めるため等の目的を実現することである。  これらの諸目的に関連して、院生は特定の領域における研究計画を作成して修士論文に帰結させるが、その研究を支える広い領域についての諸科目を、指導教員の助言を受けながら学習する。企業・起業の① 環境領域、② 会計・マネジメント領域、③ マネジメント・サイエンス領域、④ メディア/ネットワーク領域の各領域について専攻以外の領域についても修士レベルでの基礎知識はどのような目的を持つ者にとっても不可欠であるが、さらに学部レベルでの基礎知識の不足を自覚する者には学習する便宜が図られる。院生に求められることは自主的な意欲であり、目的を実現させる努力である。							
専攻のカリキュラムポリシー		専攻の学習成果(◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目)							
1. 教育目標 本研究科は、「創造性豊かな次世代社会の担い手を育成する」という建学の基本理念に則り、「専門経営者、特に同候補者、起業家の教育・育成」という実践的な高度の専門職業人の養成を目的とする。  2. 目標項目 本研究科の教育研究は、次の3つの目標項目において1つ以上の能力を習得しなければならない。 A. 「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。 変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。 B. 「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。 情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。 C. 「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。 情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。  3. 教育研究科目群 教育目標を実現するために、教育研究の領域を「企業・起業」における“マネジメント”、“環境”、“マネジメント・サイエンス”と“メディア/ネットワーク”の4つの学問領域と論文指導に区分し、履修形態を講義科目と演習科目により編成している。 A. 「企業・起業の環境」領域 企業家・起業家に必須な社会システムを体得させるための主要要素を鳥瞰できるような科目群。 B. 「企業・起業のマネジメント」領域 企業・起業の諸問題に切り込むための経営管理能力と経営意思決定能力を体得させるための科目群。 C. 「企業・起業のマネジメント・サイエンス」領域 企業・起業活動の意思決定や管理に対しコンピュータの活用によるモデル構築やシミュレーション等を行い、これらを体験的に学習させる科目群。 D. 「企業・起業のメディア/ネットワーク」領域 メディア関係ではメディアのデジタル技術と表現方法を体験的に学習させるための科目群。 E. 論文指導 これら4つの領域の中から、修学者個人の問題意識に基づく修士論文作成を必修科目として義務付けている。		「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。  「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。  「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。  ◎ 修士論文に関する高度な知識と技能を有する  ◎ 創造性と専門性を発揮し、経営の諸問題も解決能力と意思決定能力を有する							
科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数						
			必修	選択					
経営情報特論	経営情報システムの特質と経営情報システム設計の本質的な課題についての理解を第一義的な目的とする。具体的には経営構造と情報システムについて言及し、経営戦略における戦略情報、計画情報、管理情報並びに業務情報の基本をマクロ並びにサブシステムベースで理解する。経営情報システム設計の基本スタンスは金額的価値をベースとした理論が中心であったが、物の流れを軸としたシステム設計論(唐澤理論)を提案し、研究を重ねている。本講義は、経営情報システムをその基礎理論から概括し、具体的な展開の仕方について検討することにある。また、意思決定理論の基本を計算問題を通して理解する。具体的な内容は以下の通りである。 ①経営情報システムの基本的な定義 ②経営情報システムの発展 ③経営構造と情報システム ④意思決定支援システムと意思決定理論の基本 ⑤システム設計論 ⑥経営情報システム設計の基本スタンス ⑦経営情報システムの設計の推進方法 上記講義により、経営における情報循環理論をベースに実践的な経営情報システムの設計方法を理解する。	1.経営情報システム関連理論の理解 2.経営情報システム設計の基本スタンスの理解 3.システム設計論の理解 4.情報循環理論の理解 5.経営戦略・経営計画・経営管理・経営業務等の仕組みの理解 6.経営情報システム設計の基本の理解 7.実社会における経営情報システム設計の基本となる事項の理解 8.意思決定システムと基礎理論の理解		4	◎				
起業論特論	本コースはアントレプレナーシップを体系的に検討する。事業機会の発見から事業の育成、そして刈り取りにいたるまで企業内外でアントレプレナーに必要とされる知見を体系的に講義し、検討するものである。	①起業家精神のあり方を自己の思いで記述できる。 ②事業創造のあり方を詳細に経営機能との関わりで解説できる ③起業という観点より知的資本、インキュベーションの課題を提示できその解決方法を説明できる。 ④ベンチャー企業の特徴を事例を通して解説できる。		4	◎				

# 豊橋創造大学大学院経営情報学研究科 起業・経営情報専攻 修士課程 カリキュラムマップ

2017/3/13

大学院研究科のディプロマポリシー			建学の理念・特徴・期待する成果など															
<p>豊橋創造大学大学院経営情報学研究科修士課程では、所定の単位を修得し学位試験に合格した者は、以下の基準を満たしていると認め、修士(経営情報学)の学位が授与される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。</li> <li>2. 修士論文に関する高度な知識と技能を有する</li> <li>3. 創造性と専門性を発揮し、経営諸問題の解決能力と意思決定能力を有する。</li> </ol>			<p>大学院に置いては、創造性をもった、専門経営者、中小企業経営者・後継者を中心とした、高度の専門的職業人の養成を目的としている。その対象は広範であり、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各種の産業の中小企業経営者が経営戦略の立案をより良く行うため</li> <li>② 中小企業の後継者がある程度の実務経験を経た後に、改めて企業の経営についての学識と能力を高めるため</li> <li>③ 企業に勤務する職業人が特定の分野を中心として企画・管理能力を向上させるため</li> <li>④ 起業を志す者が意欲を間違いなく現実のものとするため</li> <li>⑤ 企業に関わるコンサルタントや職業会計人などの専門家としての準備をするため</li> <li>⑥ 地方自治体や地域経済団体の職員が産業行政・産業振興についての専門能力を高めるため</li> <li>⑦ 企業経営に関する専門研究者の基礎を固めるため等の目的を実現することである。</li> </ol> <p>これらの諸目的に関連して、院生は特定の領域における研究計画を作成して修士論文に帰結させるが、その研究を支える広い領域についての諸科目を、指導教員の助言を受けながら学習する。企業・起業の① 環境領域、② 会計・マネジメント領域、③ マネジメント・サイエンス領域、④ メディア/ネットワーク領域の各領域について専攻以外の領域についても修士レベルでの基礎知識はどのような目的を持つ者にとっても不可欠であるが、さらに学部レベルでの基礎知識の不足を自覚する者には学習する便宜が図られる。院生に求められることは自主的な意欲であり、目的を実現させる努力である。</p>															
専攻のカリキュラムポリシー			専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目)															
<p>1. 教育目標 本研究科は、「創造性豊かな次世代社会の担い手を育成する」という建学の基本理念に則り、「専門経営者、特に同候補者、起業家の教育・育成」という実践的な高度の専門職業人の養成を目的とする。</p> <p>2. 目標項目 本研究科の教育研究は、次の3つの目標項目において1つ以上の能力を習得しなければならない。</p> <p>A. 「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。 変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。</p> <p>B. 「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。 情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</p> <p>C. 「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。 情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p> <p>3. 教育研究科目群 教育目標を実現するために、教育研究の領域を「企業・起業」における“マネジメント”、“環境”、“マネジメント・サイエンス”と“メディア/ネットワーク”の4つの学問領域と論文指導に区分し、履修形態を講義科目と演習科目により編成している。</p> <p>A. 「企業・起業の環境」領域 企業家・起業家に必須な社会システムを体得させるための主要要素を鳥瞰できるような科目群。</p> <p>B. 「企業・起業のマネジメント」領域 企業・起業の諸問題に切り込むための経営管理能力と経営意思決定能力を体得させるための科目群。</p> <p>C. 「企業・起業のマネジメント・サイエンス」領域 企業・起業活動の意思決定や管理に対しコンピュータの活用によるモデル構築やシミュレーション等を行い、これらを体験的に学習させる科目群。</p> <p>D. 「企業・起業のメディア/ネットワーク」領域 メディア関係ではメディアのデジタル技術と表現方法を体験的に学習させるための科目群。</p> <p>E. 論文指導 これら4つの領域の中から、修学者個人の問題意識に基づく修士論文作成を必修科目として義務付けている。</p>			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。</td> <td style="vertical-align: top;">「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。</td> <td style="vertical-align: top;">「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</td> <td style="vertical-align: top;">「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</td> <td style="vertical-align: top;">修士論文に関する高度な知識と技能を有する</td> <td style="vertical-align: top;">創造性と専門性を発揮し、経営の諸問題も解決能力と意思決定能力を有する</td> </tr> </table>										「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。	「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。	「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。	「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。	修士論文に関する高度な知識と技能を有する	創造性と専門性を発揮し、経営の諸問題も解決能力と意思決定能力を有する
「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。	「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。	「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。	「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。	修士論文に関する高度な知識と技能を有する	創造性と専門性を発揮し、経営の諸問題も解決能力と意思決定能力を有する													
科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数															
			必修	選択														
ファイナンス特論	企業におけるファイナンスの目的は、調達した資金を効率的に運用して多くの成果を獲得することにある。こうした企業活動は、企業価値の創造をもたらすことに繋がる。換言すれば、企業は、各種の資金を調達し、様々な形態で調達資金を運用し多くの成果を得ることを主たる目標としている。多くの資金を調達するために多様な資金源泉を探索する。集めた資金については、効果的な投資先資産の組み合わせを選択することになるが、ポートフォリオ理論が有効となる。企業の投資の成果は、財務諸表で把握することが可能である。つまり、損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書等に現れる資金運用の成果が業績であり、企業の基礎的価値評価として現れる。事業計画に基づく資金の運用に当たっては、リスク管理に注力し、結果的に最大の資金運用成果をあげることが期待される。事業の運用成果は、有価証券報告書に収納されている財務諸表を分析することによって把握することが可能である。他方、キャッシュ・フロー計算書により資金収支と残高を明らかにすることができる。授業では、タイムリーな事例を取り上げ、ファイナンスの現実的な問題を検討してみたい。	ファイナンスに関する情報を収集し、各種の選択理論の構築を試みる。また、各種の事例を取り上げ、分析検討ができること。更に、研究成果の発表に挑戦する。		4	◎													
原価計算特論	本年度は開講しない	本年度は開講しない		4	◎													
制度会計特論	制度会計は、金融商品取引法会計、会社法会計、税務会計によって構成されている。なお、会計制度の基礎に位置づけられる会計原則、会計基準は、概念フレームワークによって理論的な枠組が提供されている。我が国の会計制度は、国際会計基準のコンバージェンス、アドプション、エンドメントの進展に伴い、ほぼ国際化が達成されている。財務諸表をとおした会計情報の内容は、多岐化している。したがって、さまざまなアプローチが必要となる。このため、研究対象の特質を究明するため多様なアプローチの構築が必要となる。まずは、多くの文献等を渉猟し、学説比較をすすめながら先行研究の達成レベルを探求してみたい。	日本における制度会計の全体像について説明できること。我が国の会計制度は、国際化の影響を受けているので、その動向についても説明できること。		4	◎													

## 豊橋創造大学大学院経営情報学研究科 起業・経営情報専攻 修士課程 カリキュラムマップ

2017/3/13

大学院研究科のディプロマポリシー		建学の理念・特徴・期待する成果など																							
<p>豊橋創造大学大学院経営情報学研究科修士課程では、所定の単位を修得し学位試験に合格した者は、以下の基準を満たしていると認め、修士(経営情報学)の学位が授与される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。</li> <li>2. 修士論文に関する高度な知識と技能を有する</li> <li>3. 創造性と専門性を発揮し、経営諸問題の解決能力と意思決定能力を有する。</li> </ol>		<p>大学院に置いては、創造性をもった、専門経営者、中小企業経営者・後継者を中心とした、高度の専門的職業人の養成を目的としている。その対象は広範であり、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各種の産業の中小企業経営者が経営戦略の立案をより良く行うため</li> <li>② 中小企業の後継者がある程度の実務経験を経た後に、改めて企業の経営についての学識と能力を高めるため</li> <li>③ 企業に勤務する職業人が特定の分野を中心として企画・管理能力を向上させるため</li> <li>④ 起業を志す者が意欲を間違いなく現実のものとするため</li> <li>⑤ 企業に関わるコンサルタントや職業会計人などの専門家としての準備をするため</li> <li>⑥ 地方自治体や地域経済団体の職員が産業行政・産業振興についての専門能力を高めるため</li> <li>⑦ 企業経営に関する専門研究者の基礎を固めるため等の目的を実現することである。</li> </ol> <p>これらの諸目的に関連して、院生は特定の領域における研究計画を作成して修士論文に帰結させるが、その研究を支える広い領域についての諸科目を、指導教員の助言を受けながら学習する。企業・起業の① 環境領域、② 会計・マネジメント領域、③ マネジメント・サイエンス領域、④ メディア/ネットワーク領域の各領域について専攻以外の領域についても修士レベルでの基礎知識はどのような目的を持つ者にとっても不可欠であるが、さらに学部レベルでの基礎知識の不足を自覚する者には学習する便宜が図られる。院生に求められることは自主的な意欲であり、目的を実現させる努力である。</p>																							
専攻のカリキュラムポリシー		専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目)																							
<p>1. 教育目標 本研究科は、「創造性豊かな次世代社会の担い手を育成する」という建学の基本理念に則り、「専門経営者、特に同候補者、起業家の教育・育成」という実践的な高度の専門職業人の養成を目的とする。</p> <p>2. 目標項目 本研究科の教育研究は、次の3つの目標項目において1つ以上の能力を習得しなければならない。</p> <p>A. 「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。 変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。</p> <p>B. 「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。 情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</p> <p>C. 「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。 情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p> <p>3. 教育研究科目群 教育目標を実現するために、教育研究の領域を「企業・起業」における“マネジメント”、“環境”、“マネジメント・サイエンス”と“メディア/ネットワーク”の4つの学問領域と論文指導に区分し、履修形態を講義科目と演習科目により編成している。</p> <p>A. 「企業・起業の環境」領域 企業家・起業家に必須な社会システムを体得させるための主要要素を鳥瞰できるような科目群。</p> <p>B. 「企業・起業のマネジメント」領域 企業・起業の諸問題に切り込むための経営管理能力と経営意思決定能力を体得させるための科目群。</p> <p>C. 「企業・起業のマネジメント・サイエンス」領域 企業・起業活動の意思決定や管理に対しコンピュータの活用によるモデル構築やシミュレーション等を行い、これらを体験的に学習させる科目群。</p> <p>D. 「企業・起業のメディア/ネットワーク」領域 メディア関係ではメディアのデジタル技術と表現方法を体験的に学習させるための科目群。</p> <p>E. 論文指導 これら4つの領域の中から、修学者個人の問題意識に基づく修士論文作成を必修科目として義務付けている。</p>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 15%;">「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。</th> <th rowspan="2" style="width: 15%;">「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。</th> <th rowspan="2" style="width: 15%;">「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</th> <th rowspan="2" style="width: 15%;">「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</th> <th rowspan="2" style="width: 15%;">修士論文に関する高度な知識と技能を有する</th> <th rowspan="2" style="width: 15%;">創造性と専門性を発揮し、経営の諸問題も解決能力と意思決定能力を有する</th> </tr> <tr> <th>◎</th> <th>◎</th> <th>◎</th> <th>◎</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。	「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。	「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。	「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。	修士論文に関する高度な知識と技能を有する	創造性と専門性を発揮し、経営の諸問題も解決能力と意思決定能力を有する	◎	◎	◎	◎						
「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。	「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。	「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。	「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。	修士論文に関する高度な知識と技能を有する	創造性と専門性を発揮し、経営の諸問題も解決能力と意思決定能力を有する																				
						◎	◎	◎	◎																
科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数		◎	◎	◎	◎	◎																
			必修	選択																					
租税法特論	租税は社会・経済生活に深く根ざしており、経済活動を行う上では、その活動に伴う租税の影響について常に意識する必要がある。本授業では、租税に関する法規である租税法について、租税法序説、租税実体法、租税手続法、租税争訟法の分野を幅広く学んでいく。なお、本授業はゼミ方式で実施する。	租税法の基本原則、主要税法の概要、租税手続、争訟手続に係る知識を習得する。		4																					
税務会計特論	税務会計は制度会計の1つであり、企業が課税所得および税額を税務当局に申告するための会計である。授業では、法人税法の規定及び判例等の学習を通じて、企業の課税所得および税額の計算に関する理論と実務的取り扱いについて学んでいく。なお、本授業はゼミ方式で実施する。	法人税法の規定及び判例等の学習を通じて、企業の課税所得および税額の計算に関する理論と実務的取り扱いに係る知識を習得する。		4																					
会計監査特論	本年度は開講しない	本年度は開講しない		4																					
財務諸表特論	企業が外部の利害関係者に対して報告を行うための会計報告書が財務諸表である。本授業では、財務諸表の種類や意義、また作成のための各種ルールについて理解を深める。なお、本授業はゼミ方式により実施する。	財務諸表に関する概括的な知識と最近の論点に係る知識を習得する。		4																					
経営システム工学特論	企業の経営プロセスにおいて、適確なる行動をとる為には適確な意思決定をしなければならない。その為、適確な経営情報を取得する最適化の方法の理解と把握を目的とする。システム工学を中心に解説していく。	・システム工学の基礎と基礎的な各種最適化の方法を理解する。 ・上記を前提とした応用レベルの最適化手法について理解する。 ・データを用いた演習から理論から実践への注意点を理解する。		4			◎																		
評価システム特論	本年度は開講しない	本年度は開講しない		4				◎																	

豊橋創造大学大学院経営情報学研究科 起業・経営情報専攻 修士課程 カリキュラムマップ

2017/3/13

大学院研究科のディプロマポリシー		建学の理念・特徴・期待する成果など							
<p>豊橋創造大学大学院経営情報学研究科修士課程では、所定の単位を修得し学位試験に合格した者は、以下の基準を満たしていると認め、修士(経営情報学)の学位が授与される。</p> <p>1. 選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。</p> <p>2. 修士論文に関する高度な知識と技能を有する</p> <p>3. 創造性と専門性を発揮し、経営諸問題の解決能力と意思決定能力を有する。</p>		<p>大学院に置いては、創造性をもった、専門経営者、中小企業経営者・後継者を中心とした、高度の専門的職業人の養成を目的としている。その対象は広範であり、</p> <p>① 各種の産業の中小企業経営者が経営戦略の立案をより良く行うため</p> <p>② 中小企業の後継者がある程度の実務経験を経た後に、改めて企業の経営についての学識と能力を高めるため</p> <p>③ 企業に勤務する職業人が特定の分野を中心として企画・管理能力を向上させるため</p> <p>④ 起業を志す者が意欲を間違いなく現実のものとするため</p> <p>⑤ 企業に関わるコンサルタントや職業会計人などの専門家としての準備をするため</p> <p>⑥ 地方自治体や地域経済団体の職員が産業行政・産業振興についての専門能力を高めるため</p> <p>⑦ 企業経営に関する専門研究者の基礎を固めるため等の目的を実現することである。</p> <p>これらの諸目的に関連して、院生は特定の領域における研究計画を作成して修士論文に帰結させるが、その研究を支える広い領域についての諸科目を、指導教員の助言を受けながら学習する。企業・起業の① 環境領域、② 会計・マネジメント領域、③ マネジメント・サイエンス領域、④ メディア/ネットワーク領域の各領域について専攻以外の領域についても修士レベルでの基礎知識はどのような目的を持つ者にとっても不可欠であるが、さらに学部レベルでの基礎知識の不足を自覚する者には学習する便宜が図られる。院生に求められることは自主的な意欲であり、目的を実現させる努力である。</p>							
専攻のカリキュラムポリシー		専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目)							
<p>1. 教育目標 本研究科は、「創造性豊かな次世代社会の担い手を育成する」という建学の基本理念に則り、「専門経営者、特に同候補者、起業家の教育・育成」という実践的な高度の専門職業人の養成を目的とする。</p> <p>2. 目標項目 本研究科の教育研究は、次の3つの目標項目において1つ以上の能力を習得しなければならない。</p> <p>A. 「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。 変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。</p> <p>B. 「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。 情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</p> <p>C. 「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。 情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p> <p>3. 教育研究科目群 教育目標を実現するために、教育研究の領域を「企業・起業」における“マネジメント”、“環境”、“マネジメント・サイエンス”と“メディア/ネットワーク”の4つの学問領域と論文指導に区分し、履修形態を講義科目と演習科目により編成している。</p> <p>A. 「企業・起業の環境」領域 企業家・起業家に必須な社会システムを体得させるための主要要素を鳥瞰できるような科目群。</p> <p>B. 「企業・起業のマネジメント」領域 企業・起業の諸問題に切り込むための経営管理能力と経営意思決定能力を体得させるための科目群。</p> <p>C. 「企業・起業のマネジメント・サイエンス」領域 企業・起業活動の意思決定や管理に対しコンピュータの活用によるモデル構築やシミュレーション等を行い、これらを体験的に学習させる科目群。</p> <p>D. 「企業・起業のメディア/ネットワーク」領域 メディア関係ではメディアのデジタル技術と表現方法を体験的に学習させるための科目群。</p> <p>E. 論文指導 これら4つの領域の中から、修学者個人の問題意識に基づく修士論文作成を必修科目として義務付けている。</p>		<p>「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。</p> <p>「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</p> <p>「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p> <p>修士論文に関する高度な知識と技能を有する</p> <p>創造性と専門性を発揮し、経営の諸問題も解決能力と意思決定能力を有する</p>							
科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数						
			必修	選択					
ディビジョンメイキング特論	企業の経営プロセスにおいて、適確なる行動をとる為には適確な意思決定をしなければならない。この講義では、その為の適確な経営情報を取得する最適化の方法の理解と把握を中心に述べていく。	・意思決定論の基礎と基礎的な各種最適化の方法を理解する。 ・上記を前提とした応用レベルの最適化手法について理解する。 ・データをを用いた演習から理論から実践への注意点を理解する。		4			◎		
メディアシステム特論Ⅰ	本年度は開講しない	本年度は開講しない		4				◎	
メディアシステム特論Ⅱ	本年度は開講しない	本年度は開講しない		4				◎	
情報処理特論	ビジネスの世界では、企業内の事務管理を始め、商品管理情報、マーケット分析など多種多様な情報が取り扱われている。これらの情報をいかに効率的かつ合理的に取り扱い、活用できるのが重要である。そうした中で大きな役割を果たすのがデータベースである。 本講義では、まず、データベースのビジネス社会における役割・位置付けを紹介するとともに、データベース管理システムについて解説する。次に、データベース設計手法について重要なポイントを解説する。その後、データ操作言語(SQL)によるデータベースの作成法、データの選択法について実習を交えながら解説する。また、データベースの活用法として、PL/SQLやOracle HTML DBの基本的な使用方法を紹介するとともに、実際に簡単なデータベース・システムを構築し、データ処理におけるデータベースの活用方法を習得する。	・基本的なデータベースシステムの設計ができる。 ・データ操作原語(SQL)を活用して、データベースの作成・データの選択ができる。 ・PL/SQLを用いて、より高度なデータ処理ができる。		4				◎	
ネットワークシステム特論Ⅰ	企業の経営プロセスにおいて、情報ネットワークは不可欠な存在となっており、ネットワークに関する知識および技術は非常に重要なものとなっています。この講義では、シスコネットワークアカデミープログラムを通して、コンピュータおよびネットワークの知識を深めます。CCNP1カリキュラムを実施しCCNP1(CISCO Certified Network professional, BSCI)程度の知識の修得を目指します。	・CCNP1カリキュラムの小テスト問題を通じてCCNP1レベルの基礎知識を身につける。 ・Final Examを通じて知識試験合格レベルの知識を修得する。 ・Skill Examを通じて実技試験合格レベルの知識を修得する。		4				◎	

豊橋創造大学大学院経営情報学研究科 起業・経営情報専攻 修士課程 カリキュラムマップ

2017/3/13

大学院研究科のディプロマポリシー		建学の理念・特徴・期待する成果など								
<p>豊橋創造大学大学院経営情報学研究科修士課程では、所定の単位を修得し学位試験に合格した者は、以下の基準を満たしていると認め、修士(経営情報学)の学位が授与される。</p> <p>1. 選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。</p> <p>2. 修士論文に関する高度な知識と技能を有する</p> <p>3. 創造性と専門性を発揮し、経営諸問題の解決能力と意思決定能力を有する。</p>		<p>大学院に置いては、創造性をもった、専門経営者、中小企業経営者・後継者を中心とした、高度の専門的職業人の養成を目的としている。その対象は広範であり、</p> <p>① 各種の産業の中小企業経営者が経営戦略の立案をより良く行うため                  ② 中小企業の後継者がある程度の実務経験を経た後に、改めて企業の経営についての学識と能力を高めるため                  ③ 企業に勤務する職業人が特定の分野を中心として企画・管理能力を向上させるため                  ④ 起業を志す者が意欲を間違いなく現実のものとするため                  ⑤ 企業に関わるコンサルタントや職業会計人などの専門家としての準備をするため                  ⑥ 地方自治体や地域経済団体の職員が産業行政・産業振興についての専門能力を高めるため                  ⑦ 企業経営に関する専門研究者の基礎を固めるため等の目的を実現することである。</p> <p>これらの諸目的に関連して、院生は特定の領域における研究計画を作成して修士論文に帰結させるが、その研究を支える広い領域についての諸科目を、指導教員の助言を受けながら学習する。企業・起業の① 環境領域、② 会計・マネジメント領域、③ マネジメント・サイエンス領域、④ メディア/ネットワーク領域の各領域について専攻以外の領域についても修士レベルでの基礎知識はどのような目的を持つ者にとっても不可欠であるが、さらに学部レベルでの基礎知識の不足を自覚する者には学習する便宜が図られる。院生に求められることは自主的な意欲であり、目的を実現させる努力である。</p>								
専攻のカリキュラムポリシー		専攻の学習成果(◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目)								
<p>1. 教育目標 本研究科は、「創造性豊かな次世代社会の担い手を育成する」という建学の基本理念に則り、「専門経営者、特に同候補者、起業家の教育・育成」という実践的な高度の専門職業人の養成を目的とする。</p> <p>2. 目標項目 本研究科の教育研究は、次の3つの目標項目において1つ以上の能力を習得しなければならない。                  A.「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。                  変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。                  B.「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。                  情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。                  C.「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。                  情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p> <p>3. 教育研究科目群 教育目標を実現するために、教育研究の領域を「企業・起業」における“マネジメント”、“環境”、“マネジメント・サイエンス”と“メディア/ネットワーク”の4つの学問領域と論文指導に区分し、履修形態を講義科目と演習科目により編成している。                  A.「企業・起業の環境」領域                  企業家・起業家に必須な社会システムを体得させるための主要要素を鳥瞰できるような科目群。                  B.「企業・起業のマネジメント」領域                  企業・起業の諸問題に切り込むための経営管理能力と経営意思決定能力を体得させるための科目群。                  C.「企業・起業のマネジメント・サイエンス」領域                  企業・起業活動の意思決定や管理に対しコンピュータの活用によるモデル構築やシミュレーション等を行い、これらを体験的に学習させる科目群。                  D.「企業・起業のメディア/ネットワーク」領域                  メディア関係ではメディアのデジタル技術と表現方法を体験的に学習させるための科目群。                  E. 論文指導                  これら4つの領域の中から、修学者個人の問題意識に基づく修士論文作成を必修科目として義務付けている。</p>		<p>「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。</p> <p>「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</p> <p>「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p> <p>◎ 修士論文に関する高度な知識と技能を有する</p> <p>◎ 創造性と専門性を発揮し、経営の諸問題も解決能力と意思決定能力を有する</p>								
科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数							
			必修	選択						
ネットワークシステム特論Ⅱ	企業の経営プロセスにおいて、情報ネットワークは不可欠な存在となっており、ネットワークに関する知識および技術は非常に重要なものとなっています。この講義では、シスコネットワークアカデミープログラムを通して、コンピュータおよびネットワークの知識を深めます。CCNP3カリキュラムを実施しCCNP3(CISCO Certified Network professional, BCMSN)程度の知識の修得を目指します。	・CCNP3カリキュラムの小テスト問題を通じてCCNP3レベルの基礎知識を身につける。 ・Final Examを通じて知識試験合格レベルの知識を修得する。 ・Skill Examを通じて実技試験合格レベルの知識を修得する。		4				◎		
特別研究Ⅰ(佐藤)	現代の企業競争は企業が顧客に提供する商品やサービスの競争から、それら商品やサービスといった価値を顧客に届ける仕組み(ビジネス・システムあるいは事業システムという)の競争に移ってきている。すなわち、事業構造の仕組みと共に商品やサービスを開発・研究する仕組み、生産の仕組み、販売やMKGの仕組み、流通・ロジスティクスの仕組み、アフターサービスの仕組み、人材資源開発・管理の仕組み、さらにそれらを相互に調整する、などをベースとしたマネジメントの仕組みとこれらの運用の仕組みの競争であるといえる。  この特別研究Ⅰでは、このような事業システムが経営の現場でどのように構築され、それらがどのような競争優位性を持っているかを分析、考究するための研究の基盤を作る上げを目的としている。	①経営戦略と事業戦略に関する事項を説明できる ②事業システムの分析と設計に関する事項を説明できる ③経営戦略・事業戦略・事業システムを知見を修士論文作成に反映させることができる		4					◎	◎
特別研究Ⅰ(氏原)	財務会計の全体像を学ぶ。日本の会計制度は、国際会計基準の影響を受けて急速に変化している。このため、日本の会計基準と国際会計基準とのコンパジェンスが図られてきている。更に、金融商品取引法や会社法も連動して変化した。これらの変化が、日本の会計制度、会計理論等にもどのような特徴をもたらしたかを究明したい。	国際化が進んでいる日本の会計基準および会計制度の特質究明を試みたい。		4					◎	◎
特別研究Ⅰ(今井)	この特別研究では、経営活動の各過程を経営システムにおいて発生する諸現象を従来のシナジェティクスの理論に加えて、システム工学や、ソフト・コンピューティングによる理論を適用して、システムの目的を達成する最適化のための自己組織化モデル構築の研究を行う。更にこれにより、経営活動における意思決定の指針を導出する研究を行う。	ソフトコンピューティングの基礎である、ニューロコンピューティング、遺伝的アルゴリズム、ファジィ理論、カオス理論、自律エージェントシステムなどの理論について理解し、論文作成の基礎知識を身に付けることを目標とする。		4					◎	◎

豊橋創造大学大学院経営情報学研究科 起業・経営情報専攻 修士課程 カリキュラムマップ

2017/3/13

大学院研究科のディプロマポリシー		建学の理念・特徴・期待する成果など								
<p>豊橋創造大学大学院経営情報学研究科修士課程では、所定の単位を修得し学位試験に合格した者は、以下の基準を満たしていると認め、修士(経営情報学)の学位が授与される。</p> <p>1. 選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。</p> <p>2. 修士論文に関する高度な知識と技能を有する</p> <p>3. 創造性と専門性を発揮し、経営諸問題の解決能力と意思決定能力を有する。</p>		<p>大学院に置いては、創造性をもった、専門経営者、中小企業経営者・後継者を中心とした、高度の専門的職業人の養成を目的としている。その対象は広範であり、</p> <p>① 各種の産業の中小企業経営者が経営戦略の立案をより良く行うため                  ② 中小企業の後継者がある程度の実務経験を経た後に、改めて企業の経営についての学識と能力を高めるため                  ③ 企業に勤務する職業人が特定の分野を中心として企画・管理能力を向上させるため                  ④ 起業を志す者が意欲を間違いなく現実のものとするため                  ⑤ 企業に関わるコンサルタントや職業会計人などの専門家としての準備をするため                  ⑥ 地方自治体や地域経済団体の職員が産業行政・産業振興についての専門能力を高めるため                  ⑦ 企業経営に関する専門研究者の基礎を固めるため等の目的を実現することである。</p> <p>これらの諸目的に関連して、院生は特定の領域における研究計画を作成して修士論文に帰結させるが、その研究を支える広い領域についての諸科目を、指導教員の助言を受けながら学習する。企業・起業の① 環境領域、② 会計・マネジメント領域、③ マネジメント・サイエンス領域、④ メディア/ネットワーク領域の各領域について専攻以外の領域についても修士レベルでの基礎知識はどのような目的を持つ者にとっても不可欠であるが、さらに学部レベルでの基礎知識の不足を自覚する者には学習する便宜が図られる。院生に求められることは自主的な意欲であり、目的を実現させる努力である。</p>								
専攻のカリキュラムポリシー		専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目)								
<p>1. 教育目標 本研究科は、「創造性豊かな次世代社会の担い手を育成する」という建学の基本理念に則り、「専門経営者、特に同候補者、起業家の教育・育成」という実践的な高度の専門職業人の養成を目的とする。</p> <p>2. 目標項目 本研究科の教育研究は、次の3つの目標項目において1つ以上の能力を習得しなければならない。                  A. 「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。                  変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。                  B. 「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。                  情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。                  C. 「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。                  情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p> <p>3. 教育研究科目群 教育目標を実現するために、教育研究の領域を「企業・起業」における“マネジメント”、“環境”、“マネジメント・サイエンス”と“メディア/ネットワーク”の4つの学問領域と論文指導に区分し、履修形態を講義科目と演習科目により編成している。                  A. 「企業・起業の環境」領域                  企業家・起業家に必須な社会システムを体得させるための主要要素を鳥瞰できるような科目群。                  B. 「企業・起業のマネジメント」領域                  企業・起業の諸問題に切り込むための経営管理能力と経営意思決定能力を体得させるための科目群。                  C. 「企業・起業のマネジメント・サイエンス」領域                  企業・起業活動の意思決定や管理に対しコンピュータの活用によるモデル構築やシミュレーション等を行い、これらを体験的に学習させる科目群。                  D. 「企業・起業のメディア/ネットワーク」領域                  メディア関係ではメディアのデジタル技術と表現方法を体験的に学習させるための科目群。                  E. 論文指導                  これら4つの領域の中から、修学者個人の問題意識に基づく修士論文作成を必修科目として義務付けている。</p>		<p>「企業家・起業家」に求められる社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。</p> <p>「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</p> <p>「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p>								
科目名	授業科目の概要	到達目標		単位数						
		必修	選択	必修	選択					
特別研究Ⅰ(見目)	エネルギー・地球環境問題を解決して持続可能な社会を構築するために、CSR(企業の社会的責任)の面からも企業活動におけるこれら問題への取り組みの必要性が改めて求められている。そうした流れを背景として、本特別研究では、公共施設や民生施設における再生可能エネルギー利用や、企業活動・ビジネスにおける環境・エネルギー政策の省エネルギー促進効果ならびに経済を検討する。 研究を進めるに当たっては、システムのエネルギー・フロー・モデルの構築、経済性・エネルギー需給制約下でのシステムの最適運用モデルの構築が求められる。そのために、数理計画法の基礎知識、ソフトコンピューティングによる計算モデルの構築法、効率的なデータ処理のためのプログラミング手法およびデータベースの活用方を習得する。 また、修士論文の作成を通して、研究の進め方やプレゼンテーション手法の習得を目指す。	・システムのエネルギー・フロー・モデルが構築できる。 ・数理計画法を用いて、複数の制約下でシステムの最適運用モデルを構築できる。 ・ソフトコンピューティングを用いて、基本的なプログラムを作成できる。 ・データベースを活用して、大量のデータを効率的に処理できる。 ・研究内容(目的、内容、手法)とその結果を適切に発表し、報告書にまとめることができる。	4					◎		◎
特別研究Ⅰ(中野)	1970年代以降の成長の終焉と対応策としてのネオリベラルな諸政策の台頭は、結果として先進資本主義諸国に新たな社会経済的な課題を生みだしてきた。その解決には、行政のみならず企業や市民社会の積極的な関与が求められている。この授業の受講者は、各自関心のあるテーマを選択し、近現代(ヨーロッパ)経済史や比較資本主義論の視点から、そうした課題の現状評価とアプローチを考察し、論文にまとめる。	・経済的、社会的状況の構造的理解に基づく現状認識の獲得。 ・現代経済史・社会史領域における特定の課題の設定。 ・そうした課題のグローバルなコンテキストにおける理解。 ・ベストプラクティスの特定とその根拠の論述。 ・研究成果の論文や論評、プレゼンテーションによるフィードバック。	4					◎		◎
特別研究Ⅱ(佐藤)	特別研究Ⅰで習得した知見をベースに、学生が自ら問題意識を持つ研究テーマについて研究を進め修士論文としてまとめあげる。	①主要な先行研究を説明できる ②論文の書き方・作法のポイントを説明できる ③論文の構成とそのつながりを解説できる ④論文の内容をわかり易く説明できる ⑤研究内容を修士論文と仕立てあげられる	4					◎		◎
特別研究Ⅱ(氏原)	財務会計分野に関する特質究明を目指す。財務会計は、企業の経営活動を主に数値に基づいて表現し情報として提供することを役割としている。財務会計は、会計理論と制度的規制からのアプローチが主要課題となる。これらに関連した文献を読み学説比較をとおして本質究明を試みたい。	各人が選定したテーマに基づく修士論文の作成・完成	4					◎		◎

## 豊橋創造大学大学院経営情報学研究科 起業・経営情報専攻 修士課程 カリキュラムマップ

2017/3/13

大学院研究科のディプロマポリシー			建学の理念・特徴・期待する成果など																											
<p>豊橋創造大学大学院経営情報学研究科修士課程では、所定の単位を修得し学位試験に合格した者は、以下の基準を満たしていると認め、修士(経営情報学)の学位が授与される。</p> <p>1. 選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。</p> <p>2. 修士論文に関する高度な知識と技能を有する</p> <p>3. 創造性と専門性を発揮し、経営諸問題の解決能力と意思決定能力を有する。</p>			<p>大学院に置いては、創造性をもった、専門経営者、中小企業経営者・後継者を中心とした、高度の専門的職業人の養成を目的としている。その対象は広範であり、</p> <p>① 各種の産業の中小企業経営者が経営戦略の立案をより良く行うため</p> <p>② 中小企業の後継者がある程度の実務経験を経た後に、改めて企業の経営についての学識と能力を高めるため</p> <p>③ 企業に勤務する職業人が特定の分野を中心として企画・管理能力を向上させるため</p> <p>④ 起業を志す者が意欲を間違いなく現実のものとするため</p> <p>⑤ 企業に関わるコンサルタントや職業会計人などの専門家としての準備をするため</p> <p>⑥ 地方自治体や地域経済団体の職員が産業行政・産業振興についての専門能力を高めるため</p> <p>⑦ 企業経営に関する専門研究者の基礎を固めるため等の目的を実現することである。</p> <p>これらの諸目的に関連して、院生は特定の領域における研究計画を作成して修士論文に帰結させるが、その研究を支える広い領域についての諸科目を、指導教員の助言を受けながら学習する。企業・起業の① 環境領域、② 会計・マネジメント領域、③ マネジメント・サイエンス領域、④ メディア/ネットワーク領域の各領域について専攻以外の領域についても修士レベルでの基礎知識はどのような目的を持つ者にとっても不可欠であるが、さらに学部レベルでの基礎知識の不足を自覚する者には学習する便宜が図られる。院生に求められることは自主的な意欲であり、目的を実現させる努力である。</p>																											
専攻のカリキュラムポリシー			専攻の学習成果(◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目)																											
<p>1. 教育目標 本研究科は、「創造性豊かな次世代社会の担い手を育成する」という建学の基本理念に則り、「専門経営者、特に同候補者、起業家の教育・育成」という実践的な高度の専門職業人の養成を目的とする。</p> <p>2. 目標項目 本研究科の教育研究は、次の3つの目標項目において1つ以上の能力を習得しなければならない。</p> <p>A. 「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。 変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。</p> <p>B. 「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。 情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</p> <p>C. 「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。 情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p> <p>3. 教育研究科目群 教育目標を実現するために、教育研究の領域を「企業・起業」における“マネジメント”、“環境”、“マネジメント・サイエンス”と“メディア/ネットワーク”の4つの学問領域と論文指導に区分し、履修形態を講義科目と演習科目により編成している。</p> <p>A. 「企業・起業の環境」領域 企業家・起業家に必須な社会システムを体得させるための主要要素を鳥瞰できるような科目群。</p> <p>B. 「企業・起業のマネジメント」領域 企業・起業の諸問題に切り込むための経営管理能力と経営意思決定能力を体得させるための科目群。</p> <p>C. 「企業・起業のマネジメント・サイエンス」領域 企業・起業活動の意思決定や管理に対しコンピュータの活用によるモデル構築やシミュレーション等を行い、これらを体験的に学習させる科目群。</p> <p>D. 「企業・起業のメディア/ネットワーク」領域 メディア関係ではメディアのデジタル技術と表現方法を体験的に学習させるための科目群。</p> <p>E. 論文指導 これら4つの領域の中から、修学者個人の問題意識に基づく修士論文作成を必修科目として義務付けている。</p>			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。</td> <td style="vertical-align: top;">「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。</td> <td style="vertical-align: top;">「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</td> <td style="vertical-align: top;">「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</td> <td style="vertical-align: top;">修士論文に関する高度な知識と技能を有する</td> <td style="vertical-align: top;">◎</td> <td style="vertical-align: top;">◎</td> <td style="vertical-align: top;">◎</td> <td style="vertical-align: top;">◎</td> <td style="vertical-align: top;">◎</td> </tr> </table>																		「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。	「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。	「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。	「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。	修士論文に関する高度な知識と技能を有する	◎	◎	◎	◎	◎
「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。	「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。	「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。	「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。	修士論文に関する高度な知識と技能を有する	◎	◎	◎	◎	◎																					
科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数																											
			必修	選択																										
特別研究Ⅱ(今井)	この特別研究では、経営活動の各過程を経営システムにおいて発生する諸現象を従来のシナジェティクスの理論に加えて、システム工学や、ソフト・コンピューティングによる理論を適用して、システムの目的を達成する最適化のための自己組織化モデル構築の研究を行う。更にこれにより、経営活動における意思決定の指針を導出する研究を行う。	特別研究1で修得したソフトコンピューティングの基礎である、ニューロコンピューティング、遺伝的アルゴリズム、ファジ理論、カオス理論、自律エージェントシステムなどの理論を基礎として、学会および中間発表等の課題を段階的に達成していくことにより、修士論文作成を行っていくことを目標とする。	4					◎		◎																				
特別研究Ⅱ(見目)	エネルギー・地球環境問題を解決して持続可能な社会を構築するために、CSR(企業の社会的責任)の面からも企業活動におけるこれら問題への取り組みの必要性が改めて求められている。そうした流れを背景として、本特別研究では、公共施設や民生施設における再生可能エネルギー利用や、企業活動・ビジネスにおける環境・エネルギー政策の省エネルギー促進効果ならびに経済を検討する。 研究を進めるに当たっては、システムのエネルギー・フロー・モデルの構築、経済性・エネルギー需給制約下でのシステムの最適運用モデルの構築が求められる。そのために、数理計画法の基礎知識、ソフトコンピューティングによる計算モデルの構築法、効率的なデータ処理のためのプログラミング手法およびデータベースの活用方を習得する。 また、修士論文の作成を通して、研究の進め方やプレゼンテーション手法の習得を目指す。	・システムのエネルギー・フロー・モデルが構築できる。 ・数理計画法を用いて、複数の制約下でシステムの最適運用モデルを構築できる。 ・ソフトコンピューティングを用いて、基本的なプログラムを作成できる。 ・データベースを活用して、大量のデータを効率的に処理できる。 ・研究内容(目的、内容、手法)とその結果を適切に発表し、報告書にまとめることができる。	4					◎		◎																				
特別研究Ⅱ(中野)	1970年代以降の成長の終焉と対応策としてのネオリベラルな諸政策の台頭は、結果として先進資本主義諸国に新たな社会経済的な課題を生みだしてきた。その解決には、行政のみならず企業や市民社会の積極的な関与が求められている。この授業の受講者は、各自関心のあるテーマを選択し、近現代(ヨーロッパ)経済史や比較資本主義論の視点から、そうした課題の現状評価とアプローチを考察し、論文にまとめる。	・経済的、社会的状況の構造的理解に基づく現状認識の獲得。 ・現代経済史・社会史領域における特定の課題の設定。 ・そうした課題のグローバルなコンテキストにおける理解。 ・ベストプラクティスの特定とその根拠論の論述。 ・研究成果の論文や論評、プレゼンテーションによるフィードバック。	4					◎		◎																				

# 豊橋創造大学大学院経営情報学研究科 起業・経営情報専攻 修士課程 カリキュラムマップ

2017/3/13

大学院研究科のディプロマポリシー		建学の理念・特徴・期待する成果など									
<p>豊橋創造大学大学院経営情報学研究科修士課程では、所定の単位を修得し学位試験に合格した者は、以下の基準を満たしていると認め、修士(経営情報学)の学位が授与される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。</li> <li>2. 修士論文に関する高度な知識と技能を有する</li> <li>3. 創造性と専門性を発揮し、経営諸問題の解決能力と意思決定能力を有する。</li> </ol>		<p>大学院に置いては、創造性をもった、専門経営者、中小企業経営者・後継者を中心とした、高度の専門的職業人の養成を目的としている。その対象は広範であり、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各種の産業の中小企業経営者が経営戦略の立案をより良く行うため</li> <li>② 中小企業の後継者がある程度の実務経験を経た後に、改めて企業の経営についての学識と能力を高めるため</li> <li>③ 企業に勤務する職業人が特定の分野を中心として企画・管理能力を向上させるため</li> <li>④ 起業を志す者が意欲を間違いなく現実のものとするため</li> <li>⑤ 企業に関わるコンサルタントや職業会計人などの専門家としての準備をするため</li> <li>⑥ 地方自治体や地域経済団体の職員が産業行政・産業振興についての専門能力を高めるため</li> <li>⑦ 企業経営に関する専門研究者の基礎を固めるため等の目的を実現することである。</li> </ol> <p>これらの諸目的に関連して、院生は特定の領域における研究計画を作成して修士論文に帰結させるが、その研究を支える広い領域についての諸科目を、指導教員の助言を受けながら学習する。企業・起業の① 環境領域、② 会計・マネジメント領域、③ マネジメント・サイエンス領域、④ メディア／ネットワーク領域の各領域について専攻以外の領域についても修士レベルでの基礎知識はどのような目的を持つ者にとっても不可欠であるが、さらに学部レベルでの基礎知識の不足を自覚する者には学習する便宜が図られる。院生に求められることは自主的な意欲であり、目的を実現させる努力である。</p>									
専攻のカリキュラムポリシー		専攻の学習成果(◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目)									
<p>1. 教育目標 本研究科は、「創造性豊かな次世代社会の担い手を育成する」という建学の基本理念に則り、「専門経営者、特に同候補者、起業家の教育・育成」という実践的な高度の専門職業人の養成を目的とする。</p> <p>2. 目標項目 本研究科の教育研究は、次の3つの目標項目において1つ以上の能力を習得しなければならない。</p> <p>A. 「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。 変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。</p> <p>B. 「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。 情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</p> <p>C. 「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。 情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</p> <p>3. 教育研究科目群 教育目標を実現するために、教育研究の領域を「企業・起業」における“マネジメント”、“環境”、“マネジメント・サイエンス”と“メディア/ネットワーク”の4つの学問領域と論文指導に区分し、履修形態を講義科目と演習科目により編成している。</p> <p>A. 「企業・起業の環境」領域 企業家・起業家に必須な社会システムを体得させるための主要要素を鳥瞰できるような科目群。</p> <p>B. 「企業・起業のマネジメント」領域 企業・起業の諸問題に切り込むための経営管理能力と経営意思決定能力を体得させるための科目群。</p> <p>C. 「企業・起業のマネジメント・サイエンス」領域 企業・起業活動の意思決定や管理に対しコンピュータの活用によるモデル構築やシミュレーション等を行い、これらを体験的に学習させる科目群。</p> <p>D. 「企業・起業のメディア/ネットワーク」領域 メディア関係ではメディアのデジタル技術と表現方法を体験的に学習させるための科目群。</p> <p>E. 論文指導 これら4つの領域の中から、修学者個人の問題意識に基づく修士論文作成を必修科目として義務付けている。</p>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。</td> <td style="width: 20%; padding: 5px;">「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。</td> <td style="width: 20%; padding: 5px;">「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。</td> <td style="width: 20%; padding: 5px;">「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。</td> <td style="width: 20%; padding: 5px;">◎</td> <td style="width: 20%; padding: 5px;">◎</td> </tr> </table>				「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。	「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。	「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。	「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。	◎	◎
「企業家・起業家」に必須な社会システムを体得し、企業・起業環境の主要要素を鳥瞰できる能力を有している。	「企業家・起業家」に求められるマネジメントに関する知識と意思決定能力を有している。変化・流動化が常態化している今日の時代状況の中で、革新的思考と先見性、行動力、問題形成力・解決力を持ち「企業家・起業家」としての意思決定をすることができる。	「マネジメント・サイエンス」に関する知識とスキルを経営諸問題解決に活用することができる。情報技術・情報リテラシーの体得を基礎にすえ、システム思考による事業展開のためのモデル構築やシミュレーションまた経営の意思決定等を、これらの情報技術の活用に基づいて経営を推進し得る知識とスキルを持つ。	「メディア/ネットワーク」分野の本質的な理解とスキルを有している。情報処理技術の知見とスキルの習得を基礎に、メディアのデジタル処理と表現方法の活用、あるいはネットワーク構築の理論と構築能力を駆使し経営諸活動に活用できる。	◎	◎						
科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数								
			必修	選択							
特別演習Ⅰ	<p>本科目は、MBA水準の基本的な経営学全般を理解することを目的としている。グローバルビジネス展開に必要とされる経営の基本 経営戦略、長期経営計画、マーケティング戦略、クリティカルシンキング、財務、人事組織、会計等経営全般の基礎を理解することを第一義的な目的とする。次いで、各科目の諸要素を実際の経営に役立てるために、これらの知見を講義・演習・計算問題を通してビジネスに応用できる力を育成することを目標としている。</p>	<p>下記に準拠する： ①レポートの提出 ②発表 ③Q&amp;A</p>		4				◎			
特別演習Ⅱ	<p>本科目は、経営戦略およびビジネスモデルについて理解・習得するとともに、身に着けた知識にもとづいて産業・企業における経営事象を分析し、戦略を策定する能力の育成を目的とする。</p> <p>前期は、代表的な経営戦略・ビジネスモデルについて『ビジネスモデルの教科書』をテキストとして講義・演習を行う。</p> <p>また、企業が「何をするべきか」と同時に、「何をするべきでないか」という意思決定も重要である。後期は、企業が「何をするべきではないか」について、過去の企業の失敗事例を取り上げたテキスト『戦略暴走』をもとに講義・演習を行う。</p>	<p>・経営戦略およびビジネスモデルに関する諸概念について説明できる。</p> <p>・経営戦略およびビジネスモデルに関する概念・フレームワークを適切に用いて、産業・企業の競争状況を分析できる。</p> <p>・経営戦略およびビジネスモデルに関する概念・フレームワークをもとに、特定企業の競争優位性について説明できる。</p> <p>・特定企業の失敗原因を分析し、指摘できる。</p>		4				◎			